



# 愛媛県 青少年赤十字だより

平成29年 1月 1日

松山市岩崎町2丁目3-40

愛媛県青少年赤十字指導者協議会  
日本赤十字社愛媛県支部

No.96

授業（第2学年 国語科）



発表集会



## 特 集

青少年赤十字研究会  
平成28年 11月2日  
西予市立多田小学校



分科会



全体会（講演）



# 第五十八回青少年赤十字研究会を終えて



西予市立多田小学校

校長 菊地 泰三

第五十八回青少年赤十字研究会を晴天の下で無事に終えることができました。前日にある程度確認してはいても、研究会のはじまりは、お客様を迎える側として、そわそわドキドキするものです。そんななか、来客の方より、今日は天気がいいから成功ですよと言っていたいただきました。天気は関係ないなと思いつつも、その声かけで気持ちはずいぶん落ち着くことができました。

子どもたちは、普段から奉仕活動をしていますが、二年前に指定を受けてからは、活動の目的や意義を意識しながら取り組むようになりました。そして、今年は「先見の時間」を設け、低学年は自身自身の生活について改善点を探ったり、意欲をもったり、高学年はさらに、学校全体についても考えを巡らせたりしました。この「先見の時間」を通して、児童会から提案される活動だけではなく、各

学級の係からも学校生活が楽しくなるようないろいろな提案が出されるようになりました。そして、提案のいくつかは実現しました。このように子どもたちが成長できたのも、この研究会のおかげだと思います。

また、お昼の休憩時間には、役員の方や賛助奉仕団の方と、植樹十年目となって大きく育った糸杉をバックに、記念写真を撮ることができました。この糸杉がソルフエリーノの丘由来のものであることを子どもたちに伝えると共に、態度目標である「気づき、考え、実行する」ことができるよう、これからの多田小学校青少年赤十字活動のシンボルとしていきたいと思えます。

最後になりましたが、ご支援、ご指導いただきました愛媛県教育委員会をはじめとする全ての方々感謝を申し上げます。

## 研究主題の概要

### 《研究主題》

自ら考え、進んで行動する児童の育成。思いを伝え合う活動を通して。

### 《研究目標》

青少年赤十字の指導理念を生かした支援を心がけ、自ら考え、進んで行動する児童を育てる。

### 《研究内容》

- 一 思いを伝え合う場の活性化と表現力の育成
  - 道徳教育の推進
  - 年間計画の見直し
  - 授業研究
  - 道徳ノートの研究
  - 地域教材の見直し・作成
- 二 特別活動
  - 発表集会の充実
  - 代表委員会の活性化
- 三 日頃の活動
  - 進んで行動できる環境づくり
  - 委員会活動の活性化
  - 先見の時間
  - 掲示板の活用
  - 赤十字週間の継承と見直し
  - 伝統行事の継承と見直し
  - 地域との連携
  - ゴールを見据えた指導・支援
  - 期待する学びの姿を意識した授業作り
  - 指導・支援についての研修

## 《研究の成果》

○ 道徳の教科化に向けて準備ができた。また、授業の中で自分の考えを記録したり、話し合ったり、自分を振り返ったりする活動を徹底したところ、一人一人の表現力が向上した。話合いが日常化し、児童は表現することに慣れ、伝え合うためのよい雰囲気が集団に生まれている。

○ 児童が主体的に活動できる時間の確保や場の設定をしたところ、生活において工夫や改善が見られた。また、行事の精選や具体的な対策をする担当者の取組で、以前より児童が落ち着いて考え、主体的に行動するようになった。

○ 教育活動における目指す児童の姿を具体的に描くことで、より児童の実態に応じた指導・支援ができ、授業や行事が充実するとともに業務が精選された。

### 《研究の課題》

- 一人一人の成長を促すためには、今後も継続した適切な指導支援が欠かせない。
- 家庭や地域の実態に応じて、連携がより良い形で実現できるように工夫・改善を続け、継続できるよう検討する必要がある。
- まだ精選・改善ができていない教育活動への対応が必要である。

# 研究会報告

西予市立多田小学校

## 一「集会・公開授業」

### ○発表集会

「生き方を考えよう」吉岡大祐さんをお迎えして」

五年生の国語科の学習に基づく発表を聞いて、全学年で感想を出し合った。過去から現在まで、様々な国の人のいろいろな偉業に触れたり、それについて友達が考えたことを聞いたりすることによって、自分の生き方を見つめ直すことにつながった。

## ○二年 国語科

### 音読げきをしよう「お手紙」

役割演技をすることを通して、既に内容が分かっているお手紙を待つ二人の気持ちを考えた。登場人物二人の会話を、隣席の二人で話し合っただけでなく、物語のよさや、言葉にして伝えることの大切さを実感することができた。

## ○四年 道徳

### 社会のためになること

#### 「ボランティアから」

日頃のボランティア活動に対する自分の姿勢を振り返りながら、資料中の様々な活動について、考えを出し合った。終末には、自分たちの生活を振り返り、自分のできることに考えてみることもできた。日頃の活動にも目が向けられ意欲的な発言をする児童もいた。

## ○六年 学級活動

### 防災について考えよう

#### 「守る命 ひろめる防災」

災害という危機的状況の中で判断・選択するという体験活動を行い、想像力を伸ばしたり災害に対する意識を高めたりした。友達と考えと比べながら自分の考えを見つめ直すことで、自分で判断することやコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。

## 二「分科会」

### ○第一分科会 教育課程の実施に

青少年赤十字をどう生かせばよいか

松山市立みどり小学校の発表を受け、研究の組織作り、これまでの取組に対しての児童の変容、教職員の変容などの情報交換をした。研究を進める場合、研究の構想に部会のねらいを入れることで、さらに実践を確かなものにする。研究会でのつながり、新たな出会いにも感謝し、学ぶことの喜びを感じられるような教育課程を目指したい。これまでの取組や歴史を学ぶことで、新たなアイデアが生まれるであろう。

○第二分科会 健全育成に青少年赤十字をどう生かせばよいか

西予市立中川小学校の発表を受けて情報交換を行った。赤十字活動を充実させることが青少年の健全育成につながる。奉仕団との防災ご飯づくりや老人会との様々な交流など、人との触れ合いの中で子どもたちは健全に育つ。あいさつ運動やボランティア活動などでは、子どもたちの気づきを大切に、しっかりと考えさせたい。赤十字から出されている資料を活用して、防災についての意識の高揚も進めよう。

### ○第三分科会 地域と連携した教育に青少年赤十字をどう生かせばよいか

今治市立日吉中学校の発表を受けて情報交換を行った。地域の方々と行う校区内清掃活動「エコウォーク」や花植え、赤十字血液センターの「いのちの講座」、社会福祉協議会とのボランティア活動など、様々な取組が行われている。赤十字奉仕団と行う手つなぎボランティアも推進したい。子どもたちは地域のために役立っているという意識を高め、地域も活性化。自分たちが社会を変えていこうとする将来の積極的参加を期待して行いたい。

## 三「全体会」

指導助言 藤岡秀和先生

(愛媛県教育委員会 義務教育課指導主事)

青少年赤十字の実践目標や態度目標は、指導要領の「生きる力」を育むことに深く関わっている。道徳ノートはこれからに生かせる取組である。期待する児童の姿を共通理解し、ねらいをもって取り組むことで学力向上にもつながる。アクティブラーニングをめざして、話し合いを深める手立ても講じられていた。子どもが気づいて考え実行し、また気づくというサイクルが、よりよい特別活動へと向かわせている。

講演 吉岡大祐先生

(ヒマラヤ青少年育英会)

ネパールで、十八年間、医療と教育において支援活動を行っている。誰かの役に立ちたいと鍼灸師になって渡ったネパールには、過酷な身分制度の中で生きる人たちがいた。病院へ行けない人を救うための医療キャンプで、人々を本当に助けるのは病気になるない方法を伝える教育だと気づかされ、子どもたちを守りたいという思いでヒマラヤ小学校をつくった。ボランティアにも支えられている学校での様々な出会いが、子どもたちの能力を開花させる。子どもを認め、信じて、これからも成長を見守っていききたい。

## 高等学校青少年赤十字協議会(秋の総会)報告

10月22日(土)日赤愛媛県支部・研修室で、高等学校青少年赤十字協議会(秋の総会)を開催しました。

高校生メンバー等42名が参加し、アイスブレイキングに続き、8月に香川県で開催された四国ブロック高校生研究協議会の参加報告がありました。引き続いて、新田高校JRC部OBの須賀智哉さん(特定非営利活動法人・自立生活センター松山)による「あなたがいま、できること」という演題で、東日本大震災時に福島で被災した時のことや、災害時に障がい者の方とどう関わるかなど、実体験に基づく講演を興味深く聞くことができました。



午後からの研修プログラムでは、役員メンバーが主体となって防災のグループワークを実施しました。

5班に分かれて、それぞれ設定された条件(場所・天気・時間帯)の中で地震が発生したら、どのような行動を取るかを話し合い、まとめて発表しました。中には、更にグループで考えた設定を追加して話し合いを進めているところもありました。自分の意見だけでなく、他人の意見を尊重しながらよりよい意見を出そうと、真摯な姿勢が見られたプログラムになり、また、常日頃、意識して生活することの大切さも学びました。

## 青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会報告

11月19日(土)松山市立みどり小学校を会場に、青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会を開催しました。今年の大会には、総勢356名(青少年赤十字メンバー175名、指導者58名、赤十字奉仕団員107名、地区分区担当者等16名)の参加がありました。

午前中の分科会では、「わたくしたちの活動・他校(団)の活動を知ろう」をテーマに、青少年赤十字9部会、赤十字奉仕団3部会に分かれ、日頃の活動について意見交換をしました。

みどり小学校の音楽クラブによる、ダンスパフォーマンス付きの素敵な演奏で始まった午後の全体会では、長年に亘り青少年赤十字活動の推進に貢献された個人と学校の表彰や、1円玉募金の贈呈、西予市立多田小学校と伊方町瀬戸赤十字奉仕団による活動発表が行われました。

本大会に持ち寄られた1円玉募金の合計は255,088円となり、アジア・大洋州地域おける「衛生・給水設備整備事業」に役立てられます。

